

## 第 2 章

### 地 域 の 概 況

## 第1節 自然的特性

### 1. 本地域の位置と地域の概況

本地域は、伊豆半島の北部から中央部に位置し、東は箱根山系の連山、北西には城山、葛城山などの山々、南は天城山系の山々に囲まれており、南西部では青く澄んだ駿河湾に面しています。

平野部には、天城山から発する狩野川が流れ、狩野川に沿うように国道136号、伊豆箱根鉄道駿豆線が走り、周辺に市街地を形成しています。

本地域における地目別土地利用の状況は、総面積458.6km<sup>2</sup>のうち、山林が277.3km<sup>2</sup>(60.5%)と最も多くなっています。宅地は、総面積の3.8%となっています。

表2-1 地目別土地利用

		宅地	田畑	山林	原野	その他	計
伊豆の国市	面積(km <sup>2</sup> )	8.0	14.1	28.4	21.2	23.0	94.7
	構成比(%)	8.4	14.9	30.0	22.4	24.3	100.0
伊豆市	面積(km <sup>2</sup> )	9.6	16.7	248.9	29.7	59.0	363.9
	構成比(%)	2.6	4.6	68.4	8.2	16.2	100.0
本地域	面積(km <sup>2</sup> )	17.6	30.8	277.3	50.9	82.0	458.6
	構成比(%)	3.8	6.7	60.5	11.1	17.9	100.0

資料) 伊豆の国市・伊豆市資料(H17.1)

### 2. 地形・地質

本地域の地形は、狩野川が天城山から北上して沼津港まで流れています。この河川の周辺に市街地が形成されており、砂質などの一般低地から成っています。この河川周辺以外は、火山灰などからなる火山性丘陵地や台地となっています。

本地域の表層地盤は、狩野川沿いの泥砂礫質地盤以外は、溶岩類や火山岩類で占められています。また、多くの断層差や断層がみられ、これらは活断層、推定断層及び地質構造線といわれています。

3. 気象

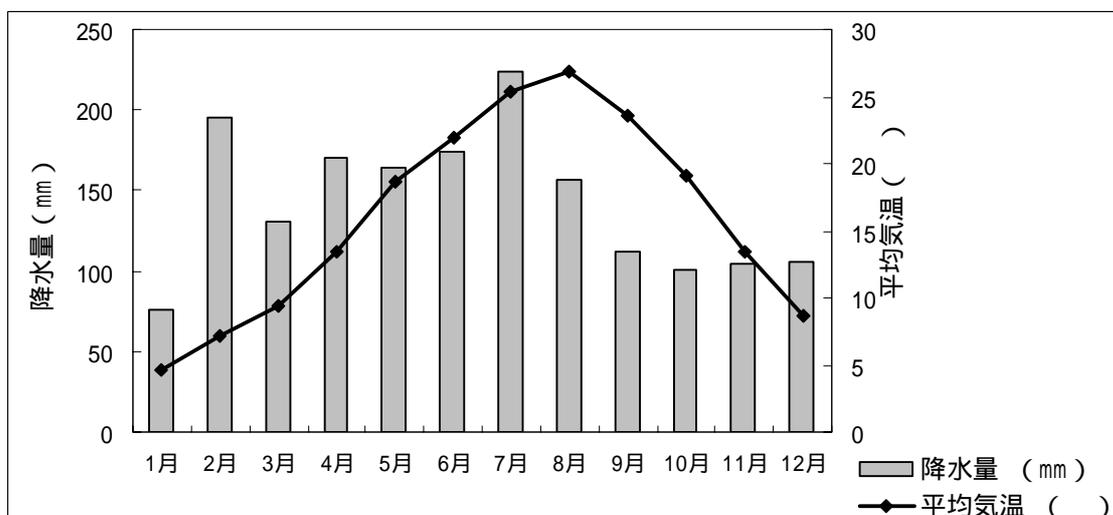
本地域に最も近い気象観測所は、本地域の北約 13.5km の位置にある三島特別気象観測所であり、その気象データを表 2-2 及び図 2-1 に示します。

本地域は、太平洋側の気候の影響から温暖な気候に恵まれ、年間を通じた平均気温は 16 前後で、年間降水量は比較的少なく、穏やかで住みやすい気候となっています。

表 2-2 三島特別地域気象観測所の気象状況（平成 18 年）

項目 月	平均気温( )	最高気温( )	最低気温( )	降水量(mm)	日照時間(時間)
1月	4.7	18.7	-5.2	75.5	143.4
2月	7.2	21.6	-4.0	195.0	144.1
3月	9.4	22.0	-1.8	130.0	176.5
4月	13.4	24.3	1.5	170.0	149.7
5月	18.7	28.3	7.4	164.5	104.3
6月	22.0	31.5	14.6	174.0	107.6
7月	25.4	34.8	19.5	224.5	74.7
8月	26.8	35.0	20.8	156.5	196.2
9月	23.6	32.8	13.5	112.0	165.5
10月	19.1	28.5	10.6	100.5	169.9
11月	13.4	23.1	2.2	104.0	151.4
12月	8.7	20.2	-3.5	105.5	139.8
平均値	16.0	26.7	6.3	142.7	143.6
合計	192.4	320.8	75.6	1712.0	1723.1
最大値	26.8	35.0	20.8	224.5	196.2
最小値	4.7	18.7	-5.2	75.5	74.7

資料) 気象庁ホームページ気象観測 (電子閲覧室) <http://www.data.kishou.go.jp/>



資料) 気象庁ホームページ気象観測 (電子閲覧室) <http://www.data.kishou.go.jp/>

図 2-1 三島特別地域気象観測所の気象状況（平成 18 年平均気温、降水量）

#### 4. 水象

狩野川は、その源を伊豆半島の天城山系に発し、下田街道に沿って北上した後、大見川、修善寺川などの支流を合流し、田方平野を潤し、更に北に向かって蛇行しながら流路を北西に転じ、来光川、大場川の諸支流を合わせ、狩野川最大の支流である黄瀬川と合流した後に、沼津市街を経て駿河湾に注いでいます。

その流域面積は 852km<sup>2</sup>、流路延長は 46km におよび、沼津市、裾野市、三島市、御殿場市、伊豆市、伊豆の国市、駿東郡、田方郡の 6 市 2 郡 3 町にまたがっており、水系の支流は 72 本があります。

狩野川流域は、国内有数の名山を有する富士・箱根・伊豆国立公園に囲まれていることから風光明媚な土地柄を示しています。地形的には、流域面積の 84% を山間部が占めるほか、修善寺より中流には田方平野が広がり、河口部は三角州の低地となっています。

狩野川の水源地天城連山は雨の多い地域で、年間降雨量はおよそ 3,000mm を越えています。さらに、柿田川に代表される富士山からの伏流水を合わせた、流量の豊富なその水は清流として知られ、伊豆市では、ワサビ栽培が盛んです。また、狩野川は、鮎の宝庫で友釣りの発祥地でもあり、流域には温泉地が点在し、観光客も多数訪れています。

(狩野川漁業協同組合ホームページより)

## 第2節 社会的特性

### 1. 人口など

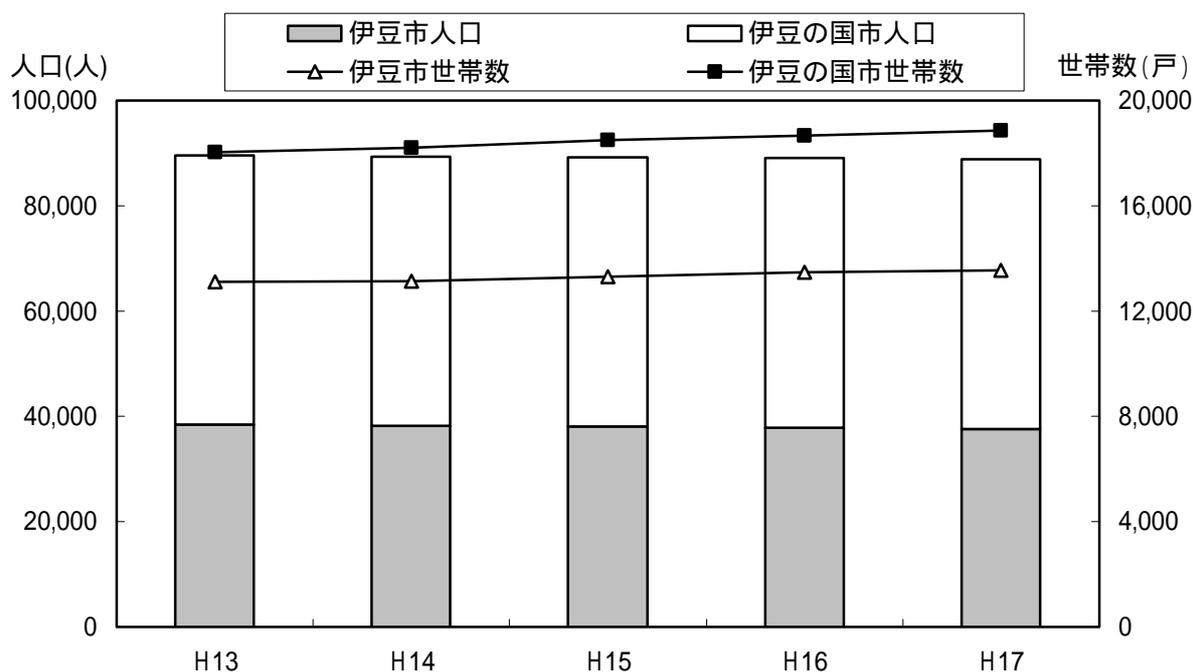
本地域の人口は、減少傾向にあり、平成17年の人口は、88,851人となっています。各市別にみると、伊豆の国市で横ばい傾向、伊豆市で減少傾向になっています。

逆に世帯数は増加傾向にあることから、1世帯あたりの人口が減少していることとなります。

表2-3 人口及び世帯数の推移

		H13	H14	H15	H16	H17
人口 (人)	伊豆の国市	51,136	51,143	51,141	51,134	51,179
	伊豆市	38,485	38,197	38,055	37,887	37,672
	計	89,621	89,340	89,196	89,021	88,851
世帯数 (戸)	伊豆の国市	18,025	18,199	18,504	18,663	18,864
	伊豆市	13,109	13,124	13,289	13,471	13,538
	計	31,134	31,323	31,793	32,134	32,402

資料) 伊豆の国市資料、伊豆市資料



資料) 伊豆の国市資料、伊豆市資料

図2-2 人口及び世帯数の推移

## 2. 交通

本地域の交通状況は図 2-3 のとおりです。

道路網は、国道 136 号、国道 136 号バイパス、国道 414 号が整備されており、それを補完するように主要地方道、一般県道が整備され、本地域内の居住地を連絡しています。

また、鉄道は、伊豆箱根鉄道駿豆線が国道 136 号に並行して整備されており、伊豆市の修善寺駅から伊豆の国市を通過し、JR 三島駅まで連絡しています。



図 2-3 交通状況